

# 年頭のごあいさつ

江田島市長

明岳

周作

## 市

民の皆様、あけましておめでとうございます。令和5年の輝かしい新春をすこやかに希望に満ちてお迎えのこと心からお慶びを申し上げます。

さて、3年を経過する新型コロナウイルス感染症拡大は、市民の皆様のご日常生活や様々な分野に影響を及ぼしております。そうした中で、市民の皆様や事業者の皆様のご協力、御支援によって、ウイズコロナという観点から、原油価格高騰対策緊急支援金、地域クーポン券配布、給食賄材費支援水道基本料金減免など新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金の活用による様々な事業に取り組んでまいりました。

また、感染防止対策を講じながら様々なイベントも開催してまいりました。昨年は、えたじまものがたり博覧会、江田島SEA TOSUMMIT2022、戦没者追悼式、切串おかげんさんまつり、ヒロシマMIKANマラソン大会、自衛隊記念式典・オースタムフェスタ江田島2022・江田島湾海上花火大会、美術展、ふれあいコンサート、安全・安心まちづくり市民の集い・「社会を明るくする運動」江田島市大会、国際ヒューマンフェスタなどでありました。あらためて、イベントを通じて人と人とのふれあいや縁のつながりの大きさを痛感したところで。

活性化につながる事業としては、市有地の有効活用という観点から、切串中学校跡地には広成建設江田島研修センター「みらい」が完成、駅舎も設置され、「さみ・ら・い」↑↑ゆめきぼう↓という駅名も決まりました。旧沖美支所では、トントンさんが旧庁舎屋上へグランピング施設を設置。秋月小学校



跡地には、オーシャンポイントさんが牡蠣の加工場とレストランを建設中で、今年の6月オープン予定です。早瀬大橋のたもとにの泉公園隣接地には、伊勢屋コンサルタントさんの写真スタジオ・グランピング・カフェも、3月オープン予定です。

市内の事業者の方々には元より、今まで市内にはなかった事業の取組や、このほか市外からの事業者の方が活性化や雇用創出につながる事業に懸命に取り組んでくれています。このことも人のつながりや縁づくりによって実現できており、ありがたいことと感謝しております。行政としてもできる限りの支援をしていけるよう頑張っております。

先月、シンガポールライターの柴倉樹(MIKI)さんとコラボジュアリーティストの今田知佐子さんが訪ねて来てくれました。昨年11月に、2年ぶりに開催された榊高祭で生徒の皆さんと一緒に制作した楽曲「おいでよ江田島」、現在、CD化を目指して取り組まれているそうです。素敵なお話ですので、皆様にもその一部を紹介します。

### 「おいでよ江田島」

爽やかな風が吹き、澄んだ空気と漂う潮の香り穏やかな波のように、おおらかで優しい町と人学校の先生も、牡蠣屋のおじちゃんもみんなみんな顔見知り

みかん畑のおばちゃんも、オリーブのお兄さんもどこかでみんな繋がってる

おいでよ江田島 海、山、青空に囲まれた島いつでも帰ってきんさい

みんな家族のような江田島

から90年前、ロサンゼルスオリンピック水泳100メートル自由形で銀メダリストになられた郷土の誇り、河石達吾さんのたった一人の御子息であります。

大古小学校の「心の教育参観日」に招かれ、6年生児童とその保護者の皆様に「硫黄島からの手紙、硫黄島への手紙」と題した授業で、御両親への想いと命の大切さについてお話をいただきました。

「硫黄島からの手紙」とは、死を覚悟して戦地に赴いた戦いのさ中、昭和19年12月出産を知らされた達吾さんは「吉報」と喜びを綴り、「達雄」と命名し、達吾さんを「日本一の造船技師」に育てたいと夢をしながら、妻輝子さんのもとに届けられた手紙であります。

「硫黄島への手紙」とは、生後間もない達吾さんの写真3枚を添えて、夫の無事を祈る妻の願いが綴られた輝子さんからの達吾さんへの手紙。

「どうか一日も早く御無事でお帰りくださいますように」との願いのこもった手紙は、昭和20年2月戦火の激しくなった硫黄島へ届けられることがなく、「宛先不明」として輝子さんのもとに返送されていたのであります。

厳しい戦時下で遠く離れていても子を宝とし、強く結ばれた御夫婦の達吾さんに注がれた愛情の物語は、返送された手紙を大切に保管された輝子さんが、平成3年に亡くなられた後、遺品整理の時、偶然見つけられ、達吾さんの手によって開封されました。

親にとって子どもは宝であること、親が子を思い、共に歩もうという夢を奪う戦争の悲しさ、そして命の大切さを語り、「皆さんは希望に満ちた大空へ飛び立ってください」とお話を結ばれたそうであります。

「故郷のまちで家族の深い愛情に支えら



れ希望を持ち夢に向かって歩み続ける」私は、このことの難しさがありがたき、命の尊さをお話からしっかりと学ばせていただきました。

子どもたちが夢に向かって羽ばたくことができる平和な国づくり、ふるさとのまちづくりの実現のため、引き続き、市民の皆様のご生活に寄り添い、求められる施策の実現に尽力してまいります。

市民の皆様方には、令和2年から新型コロナウイルス対策のため、不自由な生活を余儀なくされていること大変申し訳なく思っております。江田島市においては、第7波の昨年8月には839人も、過去にない新規感染者の急増がありました。10月に入り、少し落ち着いてまいりましたが、11月からまた多くの方の感染が連日のように確認されていることから、未だ予断を許さない状況となっております。

昨年の10月24日から現在、感染の主流となっているオミクロン株に対応したワクチン接種を開始しています。このワクチンは、重症化予防効果やオミクロン株に対する発症予防効果、今後の変異株に対して有効である可能性が高いことが期待されています。是非、お早めにワクチン接種をしていただきますようお願い申し上げます。

令和5年が大きな災害や事故がないこと、新型コロナウイルス感染症が収束すること、市民の皆様にとって、輝かしい、また、意義深い一年となりますよう祈念いたしまして、新年の挨拶とさせていただきます。

本年もよろしく申し上げます。



今月は  
おおかた よしえ  
大方 芳恵さん

### シリーズ連載 その80

## つむぐ通信

「つむぐ通信」では、地域おこし協力隊員が、月替わりで活動内容やイベントなどのお知らせ、地域おこしに関する企画や提案を紹介していきます。

- 【江田島市地域おこし協力隊】
- 体験型観光推進員 塚田 忠則
  - プロモーション推進員 牛尾奈緒子
  - 空き家活用ディレクター 蛇草 孝介
  - 国際交流支援員 大方 芳恵
  - えたじま里海ナビゲーター 守本 怜矢

facebookで情報を発信しています 江田島市地域おこし協力隊

あけましておめでとうございます。国際交流支援員の大方です。昨年4月から江田島市での生活をはじめ、早9カ月が過ぎました。秋にはオリーブ狩りに挑戦させていただいたり、島のカキやイノシシ、おいしいミカンや野菜を食べたり、島の豊かさを感じながら過ごしています。

### 江田島市国際交流協会(EIFA) イベント実施

12月4日(日)、「EIFA第3回国際ヒューマンフェスタ」が開催されました。ステージでは、児童生徒による人権作文の発表やにほんごスピーチ、和太鼓「絆」によるパフォーマンス、ウクライナ出身のカタリーナさんによるバンドウーラ演奏がありました。また、屋外では食文化交流が行われ、約550人にお越しいただきました。

### 食を通じた文化交流

「母国を知ってもらう嬉しさ」ベトナム、フィリピン、中国、インドネシア、バングラデシュ、ザンビア出身の江田島市に住んでいる多くの外国人市民の皆さんの協力で、さまざまな国の郷土料理を味わってもらえることができました。参加者からは、「島にこんなに外国人の方がいたなんて知らなかった」、「食を通じた交流は敷居が低くて楽しい」、「みんな頑張ってるね！」などの声

が聞こえてきました。また、外国人市民からも、「島の人たちに、私たちの国を知ってもらうこと、母国の料理をおいしいと言ってもらってもいいことは、本当にうれしい」との声がありました。このような交流を通じ、外国人市民や彼ら・彼女らの母国について知る機会、外国人市民が自国について紹介できる場を作っていく、互いを知り合い尊重することで、「見えない心の壁」を除いていくことが大切だと改めて感じました。

### どんな気持ちで暮らしているのかを知る・日本で頑張る姿

日本語スピーチでは、中学生・高校生の外国人生徒が、江田島市で感じたことや来日当初の苦労、同時に多くの人たちに支えてもらっていたこと、自分の思いを日本語で一生懸命発表し、会場に感動を与えました。社会人の発表者からは、新しく来日する外国人労働者をどのように気持ちでサポートしているかが語られました。「江田島市に来られて、どのような気持ちで暮らしているかが垣間見れた」「地元民として必要なサポートをしていきたい」などの声もあがりました。

私自身は、このイベントには初めて携わらせていただきましたが、多くの外国人市民も主体的に笑顔でイ



①和太鼓で老若男女、国籍を越えた参加者が力強い音を奏でました！②にほんごスピーチ ③食文化交流